

天文教育

2019

5

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



〈投稿〉CAP ジャーナルの紹介／インクルーシブ天文（学）

〈報告〉日本天文学会第 21 回ジュニアセッション報告

〈連載〉オランダでの望遠鏡発明の全容／社会教育施設について
考える（WG 報告）

〈その他〉支出に関するガイドライン

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・ **広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートがホームページ (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいたたく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

桜と星月夜

2019年4月28日03時24分（円周魚眼8mm, F=4.0）
黒部のエドヒガン桜（長野県高山村）。撮影者：大西浩次

新しい令和の時代が始まりました。（日本）天文教育普及研究会が発足したのが1989年、ちょうど平成元年です。そこから30年を経て一般社団法人となり、今日に至っています。この31年目の年の5月1日より、令和元年が始まったということで、再び、新しいスタート時点に立ったとも言えるでしょう。

そこで、令和のスタートの表紙は、平成時代の最後の満開の桜と天の川のコラボを紹介しましょう。みなさん、夏の天の川を眺めるベストシーズンはいつ頃だと思いますか。私は、5月から6月の梅雨の合間の五月晴れの時期です。ちょうど

この季節、夜がふけると、東の空から夏の天の川が昇ってきます。次々と昇ってくる天の川沿いの天体を眺めていると、意外と早い時間に薄明が始まります。気づくと、天頂付近から南の空へ流れ落ちるような天の川が見えています。薄明の空に溶けていく様に消える天の川を見送ると、鳥たちのさえずりが始まります。この幕切れの良さもこの季節の好きなポイントです。今年は、夏の天の川は木星と土星が両岸に居て、さらに華やかです。

今回は、ちょうど、こんな夜明けの天の川と桜です。夜明けが始まる頃に、春の低い下弦過ぎの月が山際に昇ってきます。その月明かりに照らされて、昨年より10日遅れで満開になった桜が、ほのかに浮かび上がっています。この桜の上に夏の大三角が見つかるのでしょうか。桜が散ると、信州は一挙に春を迎えます。

（大西浩次）